令和８年度　学校推薦型選抜　小論文Ａ　【解答例】

人文社会科学部　現代社会学科
法律経済学科

問１
通常、企業は学校卒業直後の学生を採用し、労働者は退職まで同じ企業で勤める。企業は特定のポジションへ配置するために労働者を採用するのではなく、発展する企業活動に貢献してもらうために採用を行う。そのため他のＯＥＣＤの加盟国と比較すると職務や労働契約の内容があまり具体的でない傾向がある。

問２
日本の大学卒業者の８１％が大学在学中に卒業後の最初の就職先を見つけている。また大企業で働く５０歳から５９歳の労働者のうち約４０％は一度も職場を変えたことがない。

問３
第一に、労働市場における雇用の流動性が低く、中途採用の労働者には主要な雇用市場において就職できる機会がほとんど無い。そのため母国で学業を修了してから来日した移民は卒業後の主要な採用時期に乗り遅れてしまう。第二に、研修は企業内で行われ、一般的な技能よりも企業固有の技能の獲得に照準が合わされる。これは技能移転の実現や技能認証の開発を保証するメカニズムの未発達を引き起こし、来日したばかりの移民は日本国外で習得した技能を証明し、日本の労働市場で確実に活用することが難しくなっている。第三に、新卒者の賃金は比較的低いが、勤続年数が長くなればその分賃金も高くなる。このことから、キャリア全体を通じて日本に、そして同じ会社に留まる可能性が低い場合、若い労働移民は日本での就職を魅力的とは思わないかもしれない。